

平成 28 年第 4 回北川村議会定例会行政報告

(平成 28 年 12 月 15 日)

おはようございます。平成 28 年第 4 回北川村議会定例会を召集しましたところ、議員各位には公私何かとご多用のなか、ご出席をいただき、本議会定例会が開かれますことを厚くお礼申し上げます。

提案に先立ちまして、行政報告をさせていただきます。

<地方創生について>

今年度が取組み実行元年となります「北川村まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、戦略の進捗状況や課題等をご報告させていただき、村民の皆様からご意見をいただくため、9月23日から10月24日まで、村内11会場で行政座談会を開催し、延べ88名にご参加をいただきました。

「ゆずを中心とした収入を得られる産業の構築」と「生活環境の整備」、この2つの柱を中心に多くのご意見、ご提案を頂戴することができました。

地方創生の取り組みにつきましては、村民の皆様のご参画がなくては、到底実現できるものではありませんので、今回いただきましたご意見、ご提案を踏まえ、役場内でも課題の洗い出し、目標達成に向けた方策について議論を重ねたうえで、必要な事業につきましては、平成 29 年度の当初予算に盛り込むべく対応してまいります。

<災害復旧事業について>

今年 9 月 18～20 日にかけて接近しました台風 16 号により、本

村では、最大 24 時間雨量 152mm、最大時間雨量 53mm の豪雨に見舞われました。この豪雨により林道上杉線の山手擁壁が延長 21.5m に渡って被災を受け、国費の負担を求める災害査定に向けて準備を進めております。

本年度は、この他にも村道 2 件、林道 1 件、農業施設 2 件の災害査定を受けております。この内、村道 1 件、農業施設 1 件はすでに、復旧工事を完成し、村道・林道各 1 件の発注を済ませ、残りの農業施設 1 件につきましては、今後発注前の県関係部署による設計書審査を経て入札の手続きを進め、早期復旧に努めます。

また、平成 28 年度に繰越しをしております 15 件につきましては、12 件の工事が完成し、残る 3 件は、県の河川災害復旧工事後に行わなければならないため、着手可能となりしだい、順次復旧をおこなってまいります。

<防災対策について>

住宅の耐震化につきましては、11 月末現在で耐震診断 11 件、耐震設計 9 件、改修工事 8 件となっています。

住民の皆様へのご負担が少しでも軽減できるよう、補助制度を設定しておりますが、まだ十分に周知が行き届いていない状況です。このため、引き続き FM 告知放送等の広報活動に加え、職員や耐震診断業者による戸別訪問を行い、耐震化の促進に努めてまいります。

防災対策につきましては、応急期機能配置計画及び業務継続計画について、高知県、受託者、村の 3 者間で協議しながら進めております。

特に応急期機能配置計画は、各地区の避難所運営にも影響が及ぶことから、地域の意見も取り入れていくこととしております。

その一つとして、これまでも課題となっていました避難所運営

マニュアルにつきまして、現在、加茂地区で策定に取り掛かっています。年度末のマニュアル完成を目指し、1月に加茂地区、受託者、村による勉強会、2月に防災訓練を行ってまいります。

<住民の移動手段について>

村民の皆様に通院や買い物などの移動手段を確保する方策を検討するため、9月末まで実態調査を行いました。この結果を踏まえまして、住民の皆様の利便性はもちろん、運行経費や運行体制の整備、持続性など、関係機関との協議を行い、検討を進めております。実施の時期につきましては、運輸支局への運行申請を含め、運行体制のめどを立て、平成29年度中に実施したいと考えています。

<保健福祉関係について>

地方創生総合戦略で掲げました「日本一の元気な長寿村づくり」の実現に向けましては、具体的に見える目標指標として「要介護率」を活用することとしました。

村内の65歳以上の方に占める要介護者の割合は、平成27年度で13.8%となっております。これは、全国1,580の自治体中、率が低い方から数えると約900番目で、全国的にはやや下の方に位置しています。なお、全国で一番要介護率が低い自治体は5.7%となっております。

今後、元気な長寿村日本一を目指し、来年度予算に向け、村民の皆様の健康づくりを推進し、介護を予防するための具体的方策を検討してまいります。

<ゆずの振興について>

今年産のゆずの農協加工場への出荷につきましては、12月11

日まで期間を延長した結果、出荷目標 1,500t に対して、1,682t の出荷量となりました。村といたしましては、引き続き、生産者への所得確保や安定販売に向けた取組みを支援してまいります。

青果輸出につきましては、今年は EU 向けに 4t を輸出し、品質についても大きなトラブルは無く、順調であるとうかがっております。

北川村産ゆずの国内外へのプロモーションを継続して取り組んだ結果、今年はテレビ等のマスコミ取材が 5 件、雑誌の特集取材が 2 件ございました。さらに、タネの取引から化粧品の商品化を行った株式会社ウテナによる消費者モニターツアーが実施されるなど、情報発信、ブランド化につながっており、需要の高まりとともに、北川村産ゆずへの関心の高さを改めて感じています。

ゆずの園地の集約につきましては、和田地区及び野友地区における大規模基盤整備と並行し、早期の流動化につながる小規模基盤整備を進めるため、10 月に小島影地区で説明会を開催するなど、園地調査をもとに、候補地となる場所の選定を行っております。

今後も必要に応じ、適宜説明会を開催していくとともに、9 月に設置しました県などとのプロジェクトチームの第 2 回目の会合を 1 月に予定しておりますので、効果的な基盤整備の手法を検討してまいります。また、用地交渉や事業申請などの業務を進めるため、農地利用集積専門員を雇用するとともに、平成 29 年度より基盤整備に着手してまいります。

新規就農者の確保につきましては、ゆずの就農希望者 2 名が給付金制度を活用して、11 月から研修を始めました。2 名の研修者は村外から転入しており、移住者の確保にもつながっています。

また「北川村地方創生推進委員会」委員の方が、自らのネットワークを活用して、県立農業高等学校の生徒を対象に、ゆずの就農について、アンケート調査を実施していただいたことがきっかけとなり、10月4日に農業高校の校長先生との意見交換を行いました。今後、農業高校の生徒さんを対象に、産地体験やインターンシップなども要望に応じて実施していただける、というありがたいお話もいただきました。このような機会も活用しながら、ゆずの後継者確保の多様な展開を検討してまいりたい、と考えております。

<ふるさときたがわ寄附金について>

ふるさと寄附金につきましては、6月に開設いたしましたインターネットでの受付を開始後、寄付額は順調に伸びており、11月末時点において1,597件、10,085千円となっています。

その返礼品のうち、旬を迎えている青果ゆずは250kgを、維新の風と名付けた米は1,000kgを超える注文を受けています。

また、手狭だった北川村観光協会の事務所につきましては、繁忙期に備え、久府付地区の村有地にプレハブの作業場を整備するとともに、職員も拡充し、以前に増して効率的な対応が図られています。今後は、更に魅力的な企画を充実させて、今年度目標金額1,800万円の達成を目指してまいります。

<観光の振興について>

観光振興につきましては、10月30日に第8回となります「北川村 慎太郎とゆずの郷祭り」を北川村保健センター、中岡慎太郎館周辺の2会場で開催しました。昨年同様、カラオケ大会、ゆず収穫体験、地元グループのお寿司、猪鍋なども販売され、村内外から訪れた約1,600人のお子供から高齢者まで、幅広い層に楽

しんでいただけたと感じております。

モネの庭の 11 月末までの来園者数は 57,248 人で、年間の計画目標である 62,000 人を何とか達成できそうな状況となっています。

11 月 26 日～12 月 25 日の間、週末と祝日に光のフェスタを開催しています。音楽イベントや体験イベント、また、飲食についても充実させた企画としておりますので、村民の皆様にはぜひご覧になっていただきますようお願い致します。

また、ごめん・なはり線で運行していますモネの庭 P R 列車につきましても、劣化したデザインフィルムを 10 月に全面張り替えが終了し、真新しい列車が海岸線を走っています。

レストラン棟の改修工事につきましても、10 月から工事が始まり、「志国高知 幕末維新博」が開幕する来年 3 月中の完成を目指しております。

次に、北川村温泉の改築工事につきましても、村産材や県産材の利用促進を考慮し、木造 C L T 構造の設計に取り組んでおり、年度内の完了を予定しています。現在、国土交通省の公募型の補助事業にも申請しており、採択されれば、C L T を活用した四国で初めての宿泊施設として、話題性も高まると考えております。

今後は、平成 29 年度当初予算への工事費等の計上とともに、同年度中の完成を目指してまいります。

<その他イベントについて>

日本遺産登録を目指しています「魚梁瀬森林鉄道」を活用した「隧道ライブ」イベントが 11 月 19 日に加茂隧道で開催され、約 40 名のお客様にご来場いただきました。村内業者による軽食販売やゆずの配布などを行い、村の P R や歴史的産業遺産の活

用に結びついたものと考えております。

12月4日には、安芸市から北川村の国道493号を通り室戸市まで自転車で駆け抜ける「第2回 安芸・室戸パシフィックライド」が開催され、314人のサイクリストのご参加をいただきました。「湯けむり会」の方々が行いました猪鍋の振る舞いによるおもてなしも大変好評であったとお聞きしております。これらのイベントにご協力いただいたボランティアの皆様や沿線住民の皆様には厚くお礼申し上げます。

<移住促進について>

移住促進につきましては、ホームページでのPRや移住相談会の参加により、今年度の役場への相談件数は32件、県の定義に基づく移住実績は4組7名となっています。

また、12月10日、11日に大阪、東京で開催された「高知暮らしフェア」にも参加し、北川村のPRを行いました。

移住住宅の整備につきましては、現在、小島地区に4世帯用のお試し住宅と久府付地区2戸の住宅改修工事の設計を進めております。このうち、久府付地区の2戸につきましては、来月、改修工事の入札を行う予定です。また、野川地区1戸の空き家を購入しましたので、今後、移住者用住宅として整備を進めてまいります。

今後、ゆずの就農支援とあわせ、ハードとソフトの両面から村への移住促進を図ってまいります。

<教育関係について>

(学校関係)

今年で3年目を迎える、倉敷芸術科学大学との連携企画としま

して、10月19日に小学校と中学校で出前授業を実施頂きました。大学側からは児島副学長をはじめ、6名の教授と学生3名が来村され、小学校ではドクターフィッシュの体験授業、中学校ではアニメーション作りの授業が行われました。参加した児童・生徒達は日ごろ体験したことのない授業に夢中になり、集中して取り組んでいました。本村では、文化・芸術に接する機会が少なくなっていることから、今後も新たな企画を展開してまいりたいと思います。

また、去る12月5日に県教育委員会より永野教育次長、長岡小中学校課長をお迎えし、教育懇談会を開催しました。その中で村からは保小中連携の取り組みについての現状や課題について説明し、県からは保小中一貫教育にむけて取り組むべき課題や取り組み方法等についてアドバイスを受けました。

村といたしましては、社会生活において必要となる知識や思考力を中学校卒業生全員が身に付けることができるよう、引き続き県との連携を密にしながら、村の総合教育会議等の場を通じて、具体的な制度設計を検討してまいりたいと考えています。

（社会教育関係）

10月9日に開催されました村民運動会につきましては、前日までの天候不順で開催が危ぶまれましたが、当日は天候にも恵まれ多くの村民の皆様にご参加いただき、野川地区が優勝という結果となりました。

また、11月19日から23日まで開催されました文化祭では、例年通り保育所及び小・中学校の作品をはじめ、一般の方々からも多くの作品が出品されました。最終日の23日に行われました芸能発表会では7組の団体の参加があり、賑やかな一日となりました。

(星神社のお弓取り)

来年1月8日には、県の無形文化財にも指定されています2年に1度の「星神社のお弓祭り」が開催されます。今回は「ダイドードリンコ 日本の祭り」のテレビ番組で取り上げていただくこととなりました。県内では1月29日、全国ではBS放送で秋に放映される予定とお聞きしていますので、北川村の伝統文化を村外に向けて発信する絶好のチャンスと考えています。

(中岡慎太郎関係)

今年で27回目となりました「中岡迂山記念全国書展」は、昨年と同様に田野町の水墨画展、安田町の色紙展と会期を合わせ、10月29日から11月6日まで村民会館で開催し、中岡迂山賞をはじめとする入賞作品の他、招待作家なども含め146点を展示しました。また、3施設連携のスタンプラリーのほか、慎太郎館での「書宗院移動展」の同時開催など集客に努めた結果、入場者数が昨年よりも若干増加しております。

表彰式には審査員の渡部半溟先生や書宗院参与理事の吉野大巨先生をはじめ、受賞者のご家族の方々など、約60名の出席のもと挙行され、中岡慎太郎の功績を顕彰し遺徳を広く知らしめる書展として、盛会のうちに閉会することができました。

<中芸広域連合関係について>

(戸籍システム共同利用業務)

戸籍システムの共同利用につきましては、順調に事務処理が進んでおり、間もなく機器導入を終え、システム等の調整及び設定作業を経て、今月下旬には構成町村の共同利用による戸籍システムの運用を開始する予定です。

（消防救急業務）

消防業務につきましては、10月末現在、管内での火災発生件数は5件（田野町1件、奈半利町2件、北川村2件）で、前年同期と比べ2件増となっております。

救急業務につきましては、10月末現在、出場件数479件、搬送人員467人で、前年同期に比べ、件数で40件、人員で49人の増加となっております。

（介護保険業務）

介護保険事業の運営状況は、10月末要介護（要支援）認定者数は927人（うち居宅サービス利用者数は465人、地域密着型サービス利用者数は106人、施設サービス利用者数は195人）となっております。

給付費の状況では、月平均106,703千円（前年度同期月平均104,687千円）で推移しており、現時点では対前年度比1.9%の増となっております。

（火葬場業務）

火葬場業務につきましては、11月末現在で前年度同時期と比較して17件増加し、149件の火葬を行っております。

内訳につきましては、管内が137件（安田町28件、田野町25件、奈半利町54件、北川村21件、馬路村9件）、管外が12件となっており、約8.1%が管外からの利用となっております。

（保健福祉業務）

小学生を対象とした放課後等デイサービスの利用人数は20名で、これまでの延べ件数は111件、前年度比5%の利用件数減となっておりますが、サービス利用回数の増加に伴い、給付額は

11,049千円と、前年度に比べ20%増となっております。

障害福祉サービス費の給付状況は、延べ1,337件、137,737千円となっており、利用件数46%増加に対し、給付費は6.5%増となっております。

<工事発注等の状況>

本年度の工事関係(工事・委託業務)発注状況につきましては、12月1日現在で、

区 分	総件数	発注件数	完了件数	発注率	完了率
・繰越明許費	19件	19件	14件	100%	73.7%
・現年予算	28件	20件	7件	71.4%	25.0%

今後、引き続き早期完成と速やかな発注に努め、事業の進捗を図って参ります。

<終わりに>

本定例会には、平成28年度北川村一般会計補正予算など議案10件、承認1件を提出させていただいております。

何卒、ご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。